

看護学生のための情報誌

きらり 看護学生



2016年10.11月号

発行☆兵庫県民主医療機関連合会看護学生委員会
〒650-0047 神戸市中央区港島南町5丁目3-7
Tel : 078-303-7351 Fax : 078-303-7353
E-mail:kangakusei@hyogo-min.com



詳しい内容は「ナーシングセミナー報告」P8をご覧ください。

Contents

P2-3 看護の現場より

P4-5 ENS 報告

P6 私が出会った看護師さん

P7 ほっと Station

P8 ナーシングセミナー報告



安心してかけられる外来を
目指して



東神戸病院
看護師

外来看護科
矢田 幸子

看護学生の皆さんに、私たちが日々看護を実践している現場での悪戦苦闘ぶりや、看護に対する熱い思いを感じていただきたく、シリーズで紹介しています。今号は外来看護科のベテラン看護師からの「看護の現場」です。

病院の顔、一般外来

私が東神戸病院に入職して早いもので23年になります。途中で阪神淡路大震災があり直後に退職しましたが、翌年にもどってきました。一貫して外来で勤務をしています。

この間に、ホスピス病棟ができました。また外来で化学療法をするようになりました。反対に、泌尿器科、産業医学科は閉科になりました。肛門科は一時期閉科になっていましたが、今は再科しています。

私の働き場所は、内科、外科、神経科、救急と毎日あちこちをマルチに担当しています。

先生それぞれに個性があり、各科で必要とされる知識、看護の内容、意識する時間の流れも様々です。内科、神経科では初診の患者様ならやはり病歴、定期受診の患者様なら、体調に変わりはないか、お薬は飲めているか、体調が悪いならこのまま外来で順

番を待っていただいているのか、救急外来に誘導し緊急での介入が必要なのかを判断します。そんな時やっぱり大事になるのは、病歴と vital sign です。外科でも上記のことをしっかり行うのに加えて、処置の際に必要な物品の準備や処置中の介助もすることになります。

緊張するけど勉強になる救急外来

外来で最も緊張するのは救急外来です。救急ではやはり時間の流れを意識しながらの看護になります。患者さんの vital sign を常に意識しながら、素早くルート確保、採血、検査周りをして診断と治療までの時間を短くする必要があります。時に緊急で転送になることもあり、救急車に同乗することもあります。各科を日替わりで担当する毎日で大変ですが、様々な知識を吸収し勉強になる毎日です。

常にアンテナを

救急外来での勤務は日々緊張の連続ですが、救急外来勤務でない時でも気を緩めることができません。なぜなら一般外来の中にまれに緊急介入の必要な患者さんがおられるからです。そのような緊急疾患の





患者さんをいかに早く見つけ出し、緊急での介入までの時間を短くできるか、重症になる前にいかに早く見つけ出せるかが重要なのですが、これがとても難しいです。

患者さんや患者さん家族との何気ない会話の中にも大事な情報が含まれていることもあります。笑顔で対応しながらいつもアンテナを張っています。そして必要なのは日々の勉強と他職種との連携です。

EKCC (地雷疾患を中心に)

緊急疾患の勉強会が院内にあります。緊急疾患の中でも特に見つけにくい、診断を誤りやすい疾患を地雷疾患と言います。いかに地雷疾患を地雷を踏まらずに迅速に診断と治療につなげるかを勉強します。同じ勉強なら楽しく勉強したいもの、ということで循環器内科の遠山先生を中心に行っている EKCC という勉強会があります。

EKCC (East KOBE Circulation Circle) の頭文字を取っています。なんだか響きがかっこいいでしょ？ 循環器疾患の中の地雷疾患を中心とした勉強会です。医師、看護師、事務、検査科、放射線科、リハビリ科から毎回たくさんの参加者があります。

実際に外来で発生した症例を中心とした勉強会で、特によく取り上げられるのは、一般外来に歩いてきた患者さん (walk in) の中に潜んでいる地雷疾患の患者さんです。

上手く対応できなくて、こうしたらもっと早く見つけ出せたのではないかな？ 診断と治療介入までの時間を短くできたのではないかな？ という反省症例から、逆に迅速に対応できた症例、各部署の連携（事務、検査科、放射線科、リハビリ科、看護科）が上手いき、患者さんが重症になる前に介入できた症例も多く取り上げてもらえます。

そしてどこが良かったのかを遠山先生の『good job~』の一言とともに紹介してもらえます。毎回楽しく学べる勉強会です。



外来の今後

外来はベテラン看護師が多く、皆少しずつ高齢化が進んでいます。そんな中で電子カルテの導入となりましたが、皆とても順応性が高くよく対応できています。何より、字が読みやすく情報収集しやすくなったことがとても快適です。

終わりに

一般外来は何と言っても病院の顔。緊張感もあり、忙しく対応に追われることも多いですが、そんな中でも、病を抱える患者さん、ご家族にいつも笑顔で声かけし対応できるよう心がけています。



近畿看護学生ゼミナール Egg Nurse Step→B (略してENS) が
8月18日～19日、奈良ロイヤルホテルにて開催され、約100名の
看護学生と看護師などが参加しました。



第14回 ENS in 奈良ロイヤルホテル

今年で14回目を迎えるENSは、民医連の近畿グループ主催で毎年開催している夏の恒例行事です。学習と交流をメインに実行委員会を立ち上げ、学習テーマについて学習を重ね、交流企画をグループ毎に練り上げて本番に臨みました。今年は「先輩看護師と語ろう」で、たっぴりと現場の看護師さんとの交流ができました。2日間の内容をご紹介します。



開会式

学習会 テーマ

学ぼう！ソーシャルバイタルサイン～民医連が大事にしている医療と看護～
講師：窪倉 みさ江氏（勤医会東葛看護専門学校校長）



ソーシャルバイタルサインって知っていますか？

意識や血圧、脈拍などの生命兆候を意味するバイタルサインに対して、食生活や住居、ライフライン、社会的基盤、人間関係など「人間らしく生活している証」という意味です。病気だけを見るのではなく、「患者さんをまるごとみる」とはどういうことなのか？民医連が大事にしている医療と看護について講演とグループワークで学びました。

① 「健康権」とは

国際人権規約に健康権とは、「すべての者が到達可能な最高水準の身体および精神の健康を享受する権利」と謳っています。病気だけを見るのではなく、ソーシャルな部分にも目を向けることが健康権を守ることにつながります。そのためには、「事実」から出発して考える、行動する。「誰のために、何のために」を常に問いながら。ナイチンゲールも「自分で感じ考え抜く力を持つ」ことを述べています。

② 事例から学ぶ

糖尿病を発症し、受診の中断を繰り返すAさんの事例についてグループワークをしました。疾患だけでなくソーシャルバイタルサインにも目を向けていくと、自己責任ではなく、社会格差や社会的支援の希薄さなどが影響していることがわかってきました。

③ 情勢にも敏感になろう

外来や病棟にいる人だけが患者さんではありません。保険証がなく病院に受診できない人にも目を向けていく必要があります。世の中の情勢がどうなっているのか、少し視野を広げて考えてみましょう。

④ 私たちにできること

病気をまるごととらえる目と構えを持ち、関心をもつことから始めましょう。



グループワークでの感想

「ソーシャルバイタルサイン」という言葉を初めて聞くという学生がほとんどでしたが、先輩看護師の現場での事例を聴くことで、民医連が大事にしている「人間らしく、その人らしく生きていく」ことを援助するためには、なくてはならないサイン（証）であることがわかりました。



先輩看護師と語ろう 交流会&閉会式



夜交流は「先輩看護師と語ろう」で、先輩看護師より心に残った患者さんとのエピソードを語り、学生からの質問に答えながら、最後はクイズに正解するとお菓子がゲットできる企画で交流しました。

2日目交流は、班対抗の人間知恵の輪、ロシアンルーレット、コスプレース、ミニ運動会と盛りだくさんの内容で、おおいに盛り上がりました！



ENSテーマ
Be Shine
～愛相会～



いつもより参加人数が少なかったですが、人間イスマー発完成、学生さんと看護師の交流時間もたくさん持てました。看護師になって一緒に働ける日を楽しみに待っていますよ！（編集委員より）

私の出会った看護師さん



姫路医療生協 共立病院
病棟看護課・副主任

福貴 友見

看護師免許を取得して20年余り、
様々な看護師と出会ってきました。

その中で、心に残った看護師さんをご
紹介したいと思います。

子育てで6年間看護師を離れていた
のですが、「やっぱり看護師にもどりたい」と、共立病院に再就職した、3日目の出来事です。

外来の処置室で勤務をしていました。
オーダーにも慣れ、先輩看護師に尋ねなくても1人で少しは動けると思っていた矢先、健診に来院された初老の方の採血を行い診察も終わられて帰宅していただきました。その後、検査室から「採血の検体が足りない」と連絡がありました。

病院から患者様へ再採血が必要と電話をさせていただきましたが、ご自宅が遠く来院は難しいとの事で、後日、ご自宅に訪問して採血させていただく事となりました。

そんな事故があった日の昼礼で、「誰が採血した?」「あ、新人さんか…」などと、ため息が出てくるなか、主任さんが「まだ入職して3日の人人が少しでも困ったり戸惑ったりしていたら声掛けをする余裕が自分達になかった事が

問題です。患者さんが多くて忙しくバタバタしていたのは仕方のない事だけど、困った事を尋ねられる雰囲気を作れなかった事、戸惑っているのかな?と、気にかけてあげる余裕がなかった事を反省しましょう」と。

とても驚きました。私の見落としで、私の責任なのですが、どんなに忙しくても『心に余裕をもつ』と言われ、目から鱗でした。そして、ミスをした私にもいえる一言だと思いました。そして、『こんな気持ちの持てる看護師になりたい』と思ってから今年で再就職10年目になります。

この主任さんの言葉で「この病院で働いていこう」と思って今に至ります。たった一言ですが、その人となり、を、表しているように思います。たった一言ですが、私の人生を変えるほど感銘を受けました。

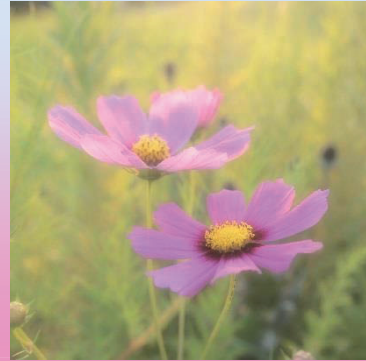
これからも様々な方と接していきます。私の一言が相手を傷つける言葉にならないよう『心に余裕』を持って接していきたいと思います。

人間ですから、忙しかったり、突然の出来事に慌てる事も沢山ありますが、そんな時こそ気持ちを落ち着かせて『心に余裕』を持てる人でありたいと思いました。



ほっと Station☆

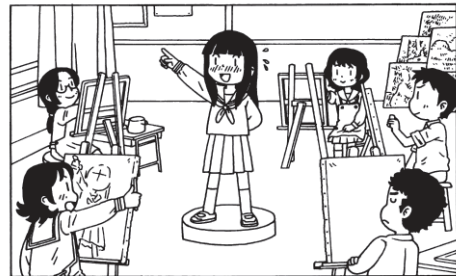
秋祭りが終われば、いよいよ秋本番ですね。
文化の秋、スポーツの秋、食欲の秋…。
趣味やスポーツを楽しんで、おいしい物を食べて、忙しい勉強の合間にリフレッシュしながらがんばっていきましょう。



正解者から抽選で5名の方に図書カードをプレゼントします。(返信ハガキをご利用くださいね)

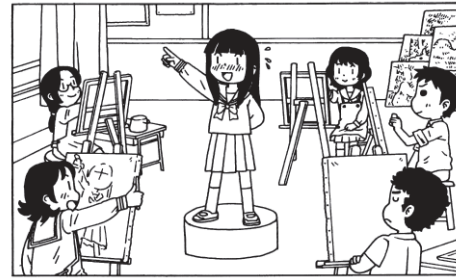
8・9月号クイズの答え

1. 手前・左端の女性の帽子
2. その隣・女性の鉢巻きの長さ
3. 左奥・背中を見せて座っている子の向き
4. 手前・中央で食器を持つ男の子の右そで
5. おたまの柄の長さ
6. ポンポンを持っている子のゼッケン
7. 右下・テーブルの脚



7つのマチガイ

【問題】上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？(作・野上和彦)



読者のつづやき

地域包括ケア病床というのを初めて知りました。先輩ナースの書籍の紹介でレビューブックというのがあったので読んでみようと思います。
ペンネーム (大福ちゃん)

今はやっと老年看護実習が終わり、ほっとしています。そろそろ勉強モードに入ろうかなと思いつつも毎日あそんでます(笑) 皆さん頑張りましょう！
ペンネーム (ゆりすけ)

部活の大会があったり、実習があったり、バイトをしたり…。もちろん勉強も。とても充実していて楽しいです！後記も頑張るぞっ！
ペンネーム (ピンク)

毎回届くのが楽しみです。色々な情報もあり、とても役に立っています。ありがとうございます。
ペンネーム (ドーナツ)



ナーシングセミナーで 学びました

8月から9月にかけて兵庫民医連の各病院で、看護学生のみなさんを対象とした「ナーシングセミナー（看護学生の看護師体験）」を開催しました。今年は合計67名（延べ人数）が体験してくれました。参加者の感想を報告します。

尼崎医療生協病院

- ・患者様へのこまやかな配慮はもちろんのこと、物品の準備や清潔操作をはじめとした行動一つ一つの精度の高さに感銘を受けました。
- ・手術室では迅速かつ安全の動作を行うことが必要であり、技術は誤りを起こさないように練習が何事にも必要であると思いました。患者さんを最優先に行動することが医療事故や患者、自分の身体を守ることにつながると学びました。（※手術室を体験）

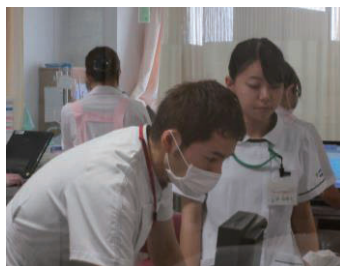


お産を2件も見学させていただき、どちらも強く印象に残るものとなりました。命が生まれる現場に立ち会い、その場にいる全ての方々が祝福の声を上げたときは涙が出るくらい感動しました。納得のいくお産は助産師や医師などその場に居合わせた方々で作りあげるものなのだと実感しました。（※産婦人科病棟を体験）



東神戸病院

夜勤中、痰の吸引やトイレ介助、体をさすったりする看護師の光景を目にして、患者さん一人ひとりの痛みに寄り添い、敬い慈しむ心が何よりも大切なのだと感じた。（※緩和ケア病棟夜勤を体験）



神戸協同病院

今日が初めての実習になりました。引継ぎや患者さんへの質問などを記録する姿をみて、患者様の情報はとても大切なのだと感じました。患者様との言葉のキャッチボールが難しく、簡単にできているのはすごいなと感じました。（※内科病棟を体験）

在宅看護について制度や看護師の役割について教科書や授業での漠然とした理解だけでしたが、体験することで援助内容やコミュニケーションの取り方、保険制度の理解につながりました。（※訪問看護ステーションを体験）

看護師がどのように患者さんやその家族とコミュニケーションをとり説明をしているのか、またどのように他職種と連携しているのかについても学ぶことができました。とても貴重な体験ができました。（※外科病棟を体験）